

二頁だけの読書会

見開きからはじまる、知への旅

本のある見開き二頁をきっかけに、
大阪大学の研究成果を
参加者のみなさんと分かち合い、
学び合うプログラムです。

Vol.9 性を管理する帝国

—なぜ近代公娼制度は長く存続したのか—

日本では終戦まで廃されることのなかった巨大な暴力装置、近代公娼制度。明治期からの富国強兵政策のもとで、近世の公娼制度を再編する形で整備されたこの性売管理のシステムをめぐるは、再編当初からその非人道性が指摘され、国内外で賛否両論の大論争が巻き起こっていました。当時の人々は、公娼制度や遊廓での性売買について、どのように捉えていたのでしょうか？ その制度のもとで、女性たちはどのように生きていたのでしょうか？ 廃娼運動が次第に勢力を増していく中でも公娼制度が維持されることになった理由について、史料を紹介しながら参加者の皆様と一緒に考えます。



ゲスト：林 葉子（大阪大学大学院文学研究科 招へい研究員）

日時：2017年9月9日（土）14時～16時（開場13時30分）

場所：りそな銀行梅田支店 プライベートサロン Re ラグゼ セミナールーム
（大阪市北区角田町8-1 梅田阪急ビルオフィスタワー24階）

参加費：無料

定員：先着順30名（要事前申込、定員になり次第受付め切）

事前申込方法：8月4日（金）21時より、
以下のウェブページにて先着順で申込を受け付けます。

<http://www.ura.osaka-u.ac.jp/ssh/2pages09.html>

二頁だけの読書会 — 見開きからはじまる、知への旅

Vol.9 性を管理する帝国

—なぜ近代公娼制度は長く存続したのか—

ゲスト：林 葉子（大阪大学大学院文学研究科 招へい研究員）

1973年生まれ。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。

主な著作に、「生理衛生教科書に見る人体の表象—「人種」と性差の男女別教育」小山静子編『男女別学の時代—戦前期中等教育のジェンダー比較』(柏書房、2015年)、「『満洲日報』にみる「踊る女」—満洲国建国とモダンガール」生田美智子編『女たちの満洲—多民族空間を生きて』(大阪大学出版会、2015年)、「公娼廃止後の廃娼運動—売春防止法制定過程における女性議員の役割」出原政雄編『戦後日本思想と知識人の役割』(法律文化社、2015年)などがある。

本の紹介

『性を管理する帝国—公娼制度下の「衛生」問題と廃娼運動』

林 葉子(著)大阪大学出版会、2017年、A5判上製本

日本における公娼制度とその存廃をめぐる議論の歴史を、徹底的な史料の裏付けのもとに再検討、学術的に、世界史的な視野から捉え直す。近代公娼制度が帝国の軍隊を維持するための性病対策であったことを重視し、それに関する「衛生」論が、階層を問わず、当時の人々に広く浸透していった経緯を明らかにした。廃娼運動が進められていく過程で形作られた家族観や、娼婦への人権侵害に関する議論の時代的变化についても詳述する。



近代公娼制度を支持した者たちの責任を問う

関連図書(上記以外)

福田真人・鈴木則子編『日本梅毒史の研究—医療・社会・国家』思文閣出版、2005年
小野沢あかね『近代日本社会と公娼制度—民衆史と国際関係史の視点から』吉川弘文館、2010年
森光子『吉原花魁日記 光明に芽ぐむ日』朝日文庫、2010年

会場までのアクセスマップ

りそな銀行梅田支店 プライベートサロン
Re ラグゼ セミナールーム
(大阪市北区角田町 8-1 梅田阪急ビル
オフィスタワー 24 階)



主催：大阪大学経営企画オフィス URA 部門
共催：大阪大学出版会、株式会社りそな銀行
協力：大阪大学クリエイティブユニット、大阪大学 21 世紀懐徳堂

問合せ先 大阪大学経営企画オフィス URA 部門 info-ura@lserp.osaka-u.ac.jp